

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「輝くひとみ 仲間とのびる 下野庭の子」

- ・めあてをもって、ねばり強く取り組んでいこうとする子を育てます。(知)
- ・生命を大切にし、自分のよいところを知り、伸ばそうとする子を育てます。(徳)
- ・自らの生活を見つめ、健康な心と体をつくろうとする子を育てます。(体)
- ・できることをすすんでやり、みんなの役に立とうとする子を育てます。(公)
- ・互いを認め合い、人や地域とよりよくなかかわろうとする子を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自分づくりに関する力	具体化した資質・能力
①基本的な生活習慣をつくる態度 ②主体的・積極的 ③自分らしさを発揮する態度	①あいさつ、睡眠、授業の準備、ルールや約束を守る ②進んで学習に取り組み、学んだことを生かそうとする、最後まであきらめない。自分で考える。見通しをもつ。 ③自分の良さを知り、じぶんらしさを生かしてチャレンジする

中期取組目標

○学校教育目標の実現に向けて、全職員が学校経営に積極的に参加し、活気にあふれた学校づくりを推進します。

- ・子どもたちが学習の楽しさを実感できる授業づくりを進め、進んで学習に取り組む意欲を高めます。
- ・一人ひとりの子どもが自分のよさに気づき、安心して過ごせる居場所づくりに努めるとともにチームとして子どもたちを育てます。
- ・自分の体力に目を向け、改善していく大切さに気づき、より力を高めていこうとする子を育てます。
- ・学校・保護者・地域と連携し、信頼される学校づくりを進めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①算数科を中心とした個別最適な学びと協働的な学びについて、授業研究と協議会を通して教師の指導力を高める。GIGA端末・AIドリルの活用や指導の個別化、特別支援的な視点を特に大切に研修及び実践提案をする。②横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、職員で共有する。その結果を踏まえ、実態に応じた指導、支援を行う
担当	教務部

学力向上に関わる本校の状況
○横浜市学力状況調査 ・全学年、知識・技能、思考・判断・表現ともに市の平均を下回っている。 ・学習することに対して消極的な児童の割合が、どの学年も20～30%ある。 ・文字や文章を読むことや書くことが好きではない。 ・話し合い活動に積極的な学年(3・4・6年)は、教科全体の正答率が高い。 ○タブレット端末を活用し、児童の学習状況や、理解度の把握を行うようにしている。 ・チャート、付箋を使用し、視覚的に思考を表現できるスキルを育てている。 ・ロイノート・スクールの提出箱に、児童が意見を提出することによって、一人ひとりの児童の考えやまとめを共有している。友達の見解を参考にしたり、考えを深めていったりすることが出来ている。 ○タブレットを活用した授業づくりを行うことで、集中したり、「できる！ やってみたい！」と思ったりするなど学習に向かうきっかけづくりとなることが確認できた。 ○日々のふり返りを大切にするために、毎時間、意図的にふり返りの時間を確保するようにしている。児童が「今日の自分がどうだったのか」、「何が分かったのか」、「何を考えることができたのか」を振り返る。

今年度の目標				
①「個別最適な学び」に焦点を当て、児童の実態から「指導の個別化」を中心に重点研究を行う。②体験的な活動やICTを活用することを通して、子どもの興味・関心を引き出し、表現したい思いにつなげる。				
目標を実現するための具体的行動プラン				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>上半期</th> <th>下半期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ○ICTを活用することで得られる新たなデータを活用し、きめ細かく児童一人ひとりの学習状況を把握・分析していくことにより、「指導の個別化」が行えるようにする。また、その方法の研究を行う。 ・AI学習ドリルを活用することにより、子ども一人一人が自分に合った学習に取り組めるようにしていく。また、その活用方法について研究していく。 ・ICT学習ツールの活用方法 ・学習状況の分析方法 ・分析したことを指導に生かす方法 ○体験的な活動や、ICTを活用した教育活動から学んだことを他者へ伝えようとするところから、表現することを工夫しようとする。表現方法として、ICTの活用方法を考えていく。 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	上半期	下半期	○ICTを活用することで得られる新たなデータを活用し、きめ細かく児童一人ひとりの学習状況を把握・分析していくことにより、「指導の個別化」が行えるようにする。また、その方法の研究を行う。 ・AI学習ドリルを活用することにより、子ども一人一人が自分に合った学習に取り組めるようにしていく。また、その活用方法について研究していく。 ・ICT学習ツールの活用方法 ・学習状況の分析方法 ・分析したことを指導に生かす方法 ○体験的な活動や、ICTを活用した教育活動から学んだことを他者へ伝えようとするところから、表現することを工夫しようとする。表現方法として、ICTの活用方法を考えていく。	
上半期	下半期			
○ICTを活用することで得られる新たなデータを活用し、きめ細かく児童一人ひとりの学習状況を把握・分析していくことにより、「指導の個別化」が行えるようにする。また、その方法の研究を行う。 ・AI学習ドリルを活用することにより、子ども一人一人が自分に合った学習に取り組めるようにしていく。また、その活用方法について研究していく。 ・ICT学習ツールの活用方法 ・学習状況の分析方法 ・分析したことを指導に生かす方法 ○体験的な活動や、ICTを活用した教育活動から学んだことを他者へ伝えようとするところから、表現することを工夫しようとする。表現方法として、ICTの活用方法を考えていく。				

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①道徳教育の充実を図り、自他のよさに気づき、認め合う心を育てる。②本物に触れる体験的な活動を取り入れる。③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書等の読書活動の充実を図る。④全校・中学校ブロックであいさつ運動を推進する。
担当	領域部会

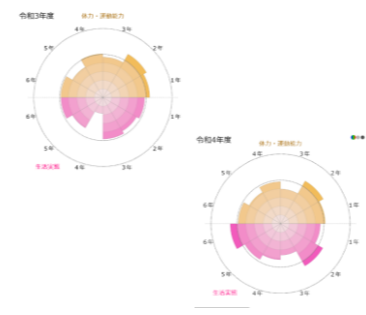
豊かな心に関わる本校の状況
児童・保護者アンケートより ○自己肯定感に関わる実態 ・低学年は8.4% 中学年は17.9% 高学年は12.8%が自己肯定感に関する項目で否定的な回答をしている。 ○挨拶に関わる実態 ・低学年は90.1% 中学年は79.4% 高学年は89.1%の児童は進んで挨拶をしていると回答している。 ・しかし、職員が挨拶したときの反応としては、実際の数値よりも低い。家族や仲の良い友達とは進んで挨拶ができるが、「いつでも」、「だれにでも」、「自分から」挨拶をし、全校として気持ちのよい挨拶ができているとは言い難い。 ○読書に関わる実態 ・低学年：20.4% 中学年：46.7% 高学年：39.8%は読書に関して否定的な回答をしていて、自ら読書をしているわけではない。

今年度の目標				
①自分の良さを知り、自分らしさを生かしてチャレンジすることによって自己肯定感を高める。②生活科・総合的な学習の時間を中心に、学習の様々な場面で体験的な活動を多く取り入れる。③意図的に読書活動を取り入れ、本を読む機会を増やす。④挨拶運動を推進する中で、より多くの児童が挨拶のよさに気づくことができるようにする。				
目標を実現するための具体的行動プラン				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>上半期</th> <th>下半期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ①-1 学習の総合化を図り、児童が学習課題を自分事として捉え、語り合いの中で深められるよう道徳科の授業の充実を図る。 ①-2 授業参観の機会に年1回は道徳科の授業を公開し、家庭や地域と連携した道徳教育の充実を目指す。 ①-3 係活動や実行委員の活動、行事後の振り返り(キャリアパスポート)を大切に、自分のよいところに改めて気づいたり、友達のよいところを認め合ったりすることができるようにする。 ②各教科や体験学習等で本物に触れる体験的な学習を意図的に取り入れ、感動や驚きを味わい、さらに知的好奇心を高めることができるようにする。 ③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書、総合的な学習の時間を通して、読書に親しむ機会を設定する。学校司書とさらに連携し、様々な機会でも本に触れ合える場を設定する。 ④自分が挨拶したかどうかだけでなく、相手から気持ちのよい挨拶が返ってきたかどうかについても振り返る。相手意識をもって挨拶をする中で、学校全体が挨拶していると感じることができるようにすることを目指す。 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	上半期	下半期	①-1 学習の総合化を図り、児童が学習課題を自分事として捉え、語り合いの中で深められるよう道徳科の授業の充実を図る。 ①-2 授業参観の機会に年1回は道徳科の授業を公開し、家庭や地域と連携した道徳教育の充実を目指す。 ①-3 係活動や実行委員の活動、行事後の振り返り(キャリアパスポート)を大切に、自分のよいところに改めて気づいたり、友達のよいところを認め合ったりすることができるようにする。 ②各教科や体験学習等で本物に触れる体験的な学習を意図的に取り入れ、感動や驚きを味わい、さらに知的好奇心を高めることができるようにする。 ③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書、総合的な学習の時間を通して、読書に親しむ機会を設定する。学校司書とさらに連携し、様々な機会でも本に触れ合える場を設定する。 ④自分が挨拶したかどうかだけでなく、相手から気持ちのよい挨拶が返ってきたかどうかについても振り返る。相手意識をもって挨拶をする中で、学校全体が挨拶していると感じることができるようにすることを目指す。	
上半期	下半期			
①-1 学習の総合化を図り、児童が学習課題を自分事として捉え、語り合いの中で深められるよう道徳科の授業の充実を図る。 ①-2 授業参観の機会に年1回は道徳科の授業を公開し、家庭や地域と連携した道徳教育の充実を目指す。 ①-3 係活動や実行委員の活動、行事後の振り返り(キャリアパスポート)を大切に、自分のよいところに改めて気づいたり、友達のよいところを認め合ったりすることができるようにする。 ②各教科や体験学習等で本物に触れる体験的な学習を意図的に取り入れ、感動や驚きを味わい、さらに知的好奇心を高めることができるようにする。 ③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書、総合的な学習の時間を通して、読書に親しむ機会を設定する。学校司書とさらに連携し、様々な機会でも本に触れ合える場を設定する。 ④自分が挨拶したかどうかだけでなく、相手から気持ちのよい挨拶が返ってきたかどうかについても振り返る。相手意識をもって挨拶をする中で、学校全体が挨拶していると感じることができるようにすることを目指す。				

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①小学校6年間を通して、計画的に体力向上を図れるようにする。体育読本の動きを映像化したものを発信し、活用していく。②運動用具の環境整備と用具の活用した遊びの提案をし、日常的な体力アップを図り、運動を楽しむ子を育てる。
担当	教科部

健やかな体に関わる本校の状況
(1)健やかな体に関わる児童の実態 ○横浜市体力・運動能力調査 ・体力、運動能力について令和3年度と比較すると、令和4年度のほうが横浜市の平均を超える学年が増えた。 ・生活実態調査に関しても、学年によってバラつきはあるものの傾向的には良い方向に向かっている。 ○生活意識調査の分析 ・どの学年も9割の児童が毎日朝食を食べている。 ・どの学年も6割以上の児童が意欲的に体を動かそうとしている。 ・1日の睡眠時間は中学年、高学年につれて睡眠時間が減少している傾向がある。 ・1日のパソコン・携帯電話・ゲーム機の視聴時間が学年が上がるにつれて高くなっている。そのことにより放課後に外に出る機会が減ってきている可能性がある。



今年度の目標				
①ICT機器を効果的に活用した授業づくりを行い、子ども達がより具体的なイメージをもって主体的に学ぶことができる。②休み時間を中心に日常的に運動に親しめる環境づくりを行う。③睡眠時間の現状を伝え、睡眠をとることのよさを伝える。				
目標を実現するための具体的行動プラン				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>上半期</th> <th>下半期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ○港南区体育研究会で作成した体育読本の動きを映像化した資料などを用いて、子どもたちが動きのイメージをイラストだけでなく実際の動きを見て学べるようにする。映像は見直しをもつ段階、課題をつかむ段階、課題解決の段階など様々な場面で活用できる。 ○映像を自由に見られるようにすることで、子どもたちが自分の必要な場面で見えて活用できるようにする。 ○教師も映像を見ることによって、指導の見直しをもったり、指導時の具体的な声掛けの参考にしたりする。 ○休み時間に運動委員会を中心に用具の貸し出しを行い、日常的に様々な遊びに親しむことができるようにする。運動委員会から用具を使った遊び方を紹介するなどして、運動への意欲を高めたり、多様な遊び方をしてバランスよく体力を高めていけるようにする。 ○保健委員会などが本校の睡眠時間の現状を伝え、そのことによる影響を知る。十分な睡眠時間をとると、どんなよさがあるのかを伝えていく。 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	上半期	下半期	○港南区体育研究会で作成した体育読本の動きを映像化した資料などを用いて、子どもたちが動きのイメージをイラストだけでなく実際の動きを見て学べるようにする。映像は見直しをもつ段階、課題をつかむ段階、課題解決の段階など様々な場面で活用できる。 ○映像を自由に見られるようにすることで、子どもたちが自分の必要な場面で見えて活用できるようにする。 ○教師も映像を見ることによって、指導の見直しをもったり、指導時の具体的な声掛けの参考にしたりする。 ○休み時間に運動委員会を中心に用具の貸し出しを行い、日常的に様々な遊びに親しむことができるようにする。運動委員会から用具を使った遊び方を紹介するなどして、運動への意欲を高めたり、多様な遊び方をしてバランスよく体力を高めていけるようにする。 ○保健委員会などが本校の睡眠時間の現状を伝え、そのことによる影響を知る。十分な睡眠時間をとると、どんなよさがあるのかを伝えていく。	
上半期	下半期			
○港南区体育研究会で作成した体育読本の動きを映像化した資料などを用いて、子どもたちが動きのイメージをイラストだけでなく実際の動きを見て学べるようにする。映像は見直しをもつ段階、課題をつかむ段階、課題解決の段階など様々な場面で活用できる。 ○映像を自由に見られるようにすることで、子どもたちが自分の必要な場面で見えて活用できるようにする。 ○教師も映像を見ることによって、指導の見直しをもったり、指導時の具体的な声掛けの参考にしたりする。 ○休み時間に運動委員会を中心に用具の貸し出しを行い、日常的に様々な遊びに親しむことができるようにする。運動委員会から用具を使った遊び方を紹介するなどして、運動への意欲を高めたり、多様な遊び方をしてバランスよく体力を高めていけるようにする。 ○保健委員会などが本校の睡眠時間の現状を伝え、そのことによる影響を知る。十分な睡眠時間をとると、どんなよさがあるのかを伝えていく。				